



**白井義次**（*ホワカミヨシジ*）：日本航空機製造にて、トマタ工場にて、自動車に27年間の開発経験を生かして、2005年に（有）バイク技術研究所を設立し、H-ロゴ一代を先取りした次世代の自転車および自転車部品の研究開発を行ってこる。



折り畳み自転車の命題である軽量化と強度をYS-11の構造を参考に実現した。YS-11では、強度が求められる主翼とエンジンの接合部分の骨組みに「三角フレーム構造」が多用されている。その軽量で最も強度ある形がこの自転車には活かされている。「本当は、この自転車もボケットに入るくらいのものなら良いよね。使う人が楽でしょう」。

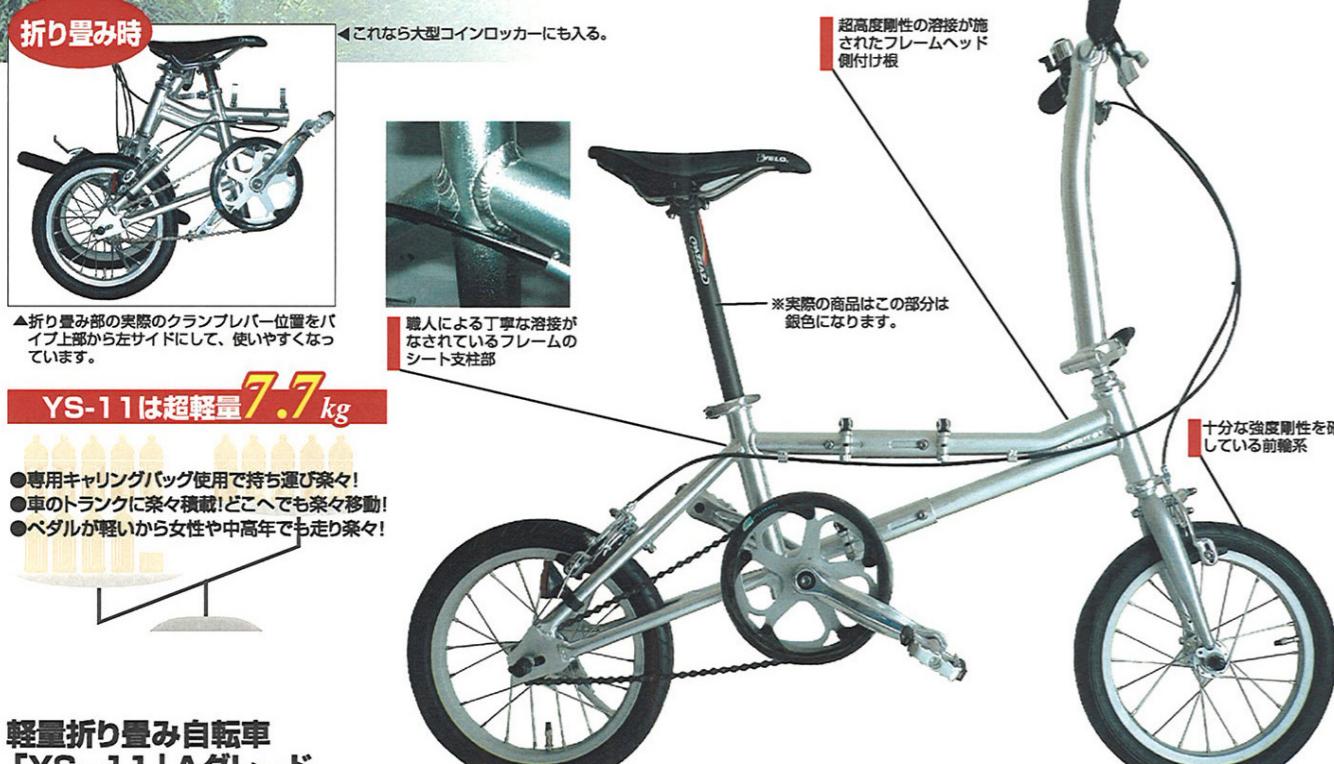
技術者の熱い情熱と、使う側への心配りで多くの人々に愛されたYS-11のように、地上の折り畳み自転車「YS-11」もまた、末永く愛され続けるに違いない。

**超軽量だから乗りやすい! 運びやすい!  
行動半径がグーンと広がる大人の遊び道具**



▲開発者の白井さんも愛用

開発者の白井さんを穿用するこの折り畳み自転車「YS-11」は近年、高まっている折り畳み自転車の需要を、使う側に立ってさらに進化させた傑作だ。現在一般的な折り畳み自転車の重量は10~14kg。しかし「YS-11」はその約半分の7.7kgと超軽量! キャリーバックを使用しても、折り畳み自転車は運搬に伴う労が多いが、「YS-11」なら悩み無用だ。しかも、旅客機Y S-11の構造を探り入れてるので、強度は抜群! 折り畳めば、ほとんどの駅の大型インロッカーに収まるコンパクトさ。ワンボックスクスカーラ折り畳まずに、楽々トランクにも積み込める。「YS-11」を2台、車に積み込んで、夫婦でサイクリングをしに高原へ、なんてプランも楽しい。行動半径がグーンと広がる、大人の遊び道具だ。



## 軽量折り畳み自転車 「YS-11」Aグレード

商品番号 PTT030-16857

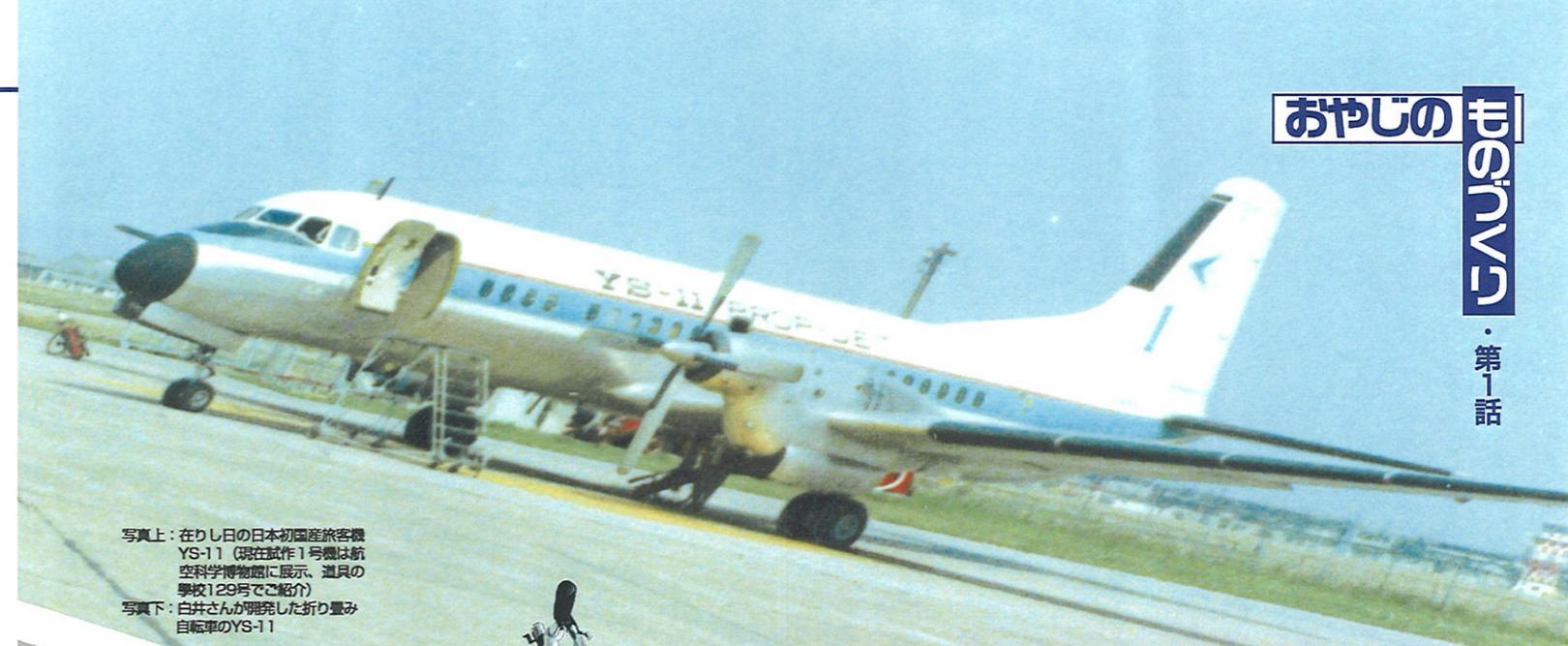
69,300円(税込)

- サイズ(約)/完成時幅50.5×奥行き116×高さ88cm、折り畳み時:幅33×奥行き63×高さ54cm・材質:アルミ合金(7005T)、他・重さ(約):7.7kg/仕様:14インチ、組立自安時間:3分前後/1年間保証書付/企画設計開発:日本、製造:台湾  
※この商品のお支払方法はカード決済のみとなります。金引換またはカードとさせていただきます。  
※お届けは月に1回以上と算じられます。※カタログでは複数枚の写真でごく一部に斜めやトリミング等を行なっています。

今  
ご注文の  
キャリ  
バッ  
プレゼン



◀お届けするキ  
ングバッグに  
YS-11のネ  
ームが付いて



写真上：在りし日の日本初国産旅客機  
YS-11（現在試作1号機は航  
空科学博物館に展示、道具の  
學校129号で紹介）

写真下：白井さんが開発した折り畳み自転車のYS-11



## 翼から銀輪へ

# YS-11よ 永遠に

**日本初国産旅客機「YS-11」が折り畳み自転車でよみがえった！**

日本初にして唯一の国産旅客機、YS-11が2006年9月30日、惜しまれつつ退役した。生産が終了してもなお30年余り飛び続け、多くの人々に愛されたプロペラ機。日本の空からその翼が消えた今、地上に新たな『YS-11』が誕生した。生みの親は、旅客機YS-11の元技術者、白井健次さん。そして今度のYSは超軽量の折り畳み自転車なのだ。

白井さんが子供の頃、電車の窓から外を眺めていると飛行場が目に入った。並んでいる飛行機がプラモデル位の大きさに見えたので「あの中の一つを持って帰って、それに乗つてピュッとどこかに行けたらいいなあ」と思つたそうだ。空なら地上の道のように障害物はない。だから移動するなら飛行機が一番と思った白井少年。飛行機に深い興味を持つようになるまで、そう時間はかからなかつた。

### 憧れのY.S.-11製造にたずさわる

白井さんはY.S-11を製造していた日本航空機製造に入社。車輪を支える主脚の改良を行う部署に配属された。入社当時すでに赤字経営で窮地に立たされた日本航空機製造。同期に10名ほどが入社したが、その誰もが「個性的な人ばかりでした」と振り返る。飛行機作りにたずさわることの喜びと希望に満ち溢れた、優れた技術者仲間だつた。もちろん白井さんもその一人。「初めてのY.S-11体験飛行は、急上昇、急降下のとき、水タンクや壁にへばり付いて大変だったんだですよ」と語るその表情は、大麥どころか実に楽しそう。心底、飛行機を愛している人なのだ。



白井さんは2005（平成17）年、（有）バイク技術研究所を設立する。「歩くより車に生かされる。」**「YSIS-1」の名を残したかったた…**

しかし、別れは突然やつてくる。赤字続  
きの会社がとうとうY.S.'11の生産を中止。  
その後、トヨタ自動車に入社。当時のトヨ  
タは、米GMなど到底及ばなかつた。あれ  
から30年。トヨタは今や世界ブランドである。  
「日本の航空機だつて、あの時止めないで  
作り続けていれば、今頃ボーリングより大  
きくなつていたかもしれない。日本は、品  
質の良いもの、燃費の良いものを作るとか、  
コストダウンとか得意なんだから。日本人  
はこういうものづくりのポテンシャルがあ  
るんですよ」。